

## 平成 21 年度 高等学校における学校評価（関係者評価）の結果報告

平成 21 年度に高等学校において実施した学校評価（関係者評価）の結果を報告致します。

### ■学校評価の実施方法

- 1) 実施時期 平成 22 年 1 月
- 2) 調査対象 高等学校の生徒の保護者（全）
- 3) 評価項目 教育活動全般および学校に対する全体的評価を行いました。
- 4) 評価方法 各項目について、5 段階評価を行いました。
  - 5：その通りである
  - 4：どちらかと言えばその通りである
  - 3：どちらとも言えない
  - 2：どちらかと言えば違う
  - 1：まったく違う

### ■評価の重点項目

#### ◎平成 21 年度の学校目標

1. 学習 基本的な学習態度を身につけ、基礎学力の習得・定着を図り、学力の向上を目指す。
2. 生活 基本的な生活習慣、規律ある態度を養い、集団生活における社会性を身につけさせる。
3. 進路 将来の進路目標を見つけ、個性を磨き、目標を実現しようと努力する態度を育てる。
4. 人権 人権意識を高め、周囲の人を尊重し、良い人間関係を築こうとする態度を養う。

### ■概 評

この学校評価は生徒の保護者による関係者評価にもとづくものである。このような関係者評価を行うことによって、教員の自己評価による学校評価をより客観的に分析し、それらを比較検討するなかで本校の教育活動とその特色が、さらに多角的・総合的に評価できるものとなる。また今後、私たちが改善しなければならない教育課題が明確になり、対策の方向性を示すものとなるのである。

私たちは、本校の教育方針をふまえ教育目標に沿って教育を行うことにより、その目標は達成され成果を挙げられるものと期待している。しかし、教員が熱意をもって取り組んだ教育活動が必ずしもより良い成果をもたらす保護者によく理解され評価されることばかりではないこともある。そのような時には、私たちの指導方法や指導内容が生徒にとって本当に適切なものであるかを自ら問い直すことが求められるのである。

保護者・生徒への質問と、それに関連する教員への質問に対する回答の結果を比較検討してみると、多くの項目において教員は自らの教育活動を高く評価しており、保護者・生徒はそれより低く評価している。21 年度の教員の自己評価では、多くの項目で前年度の評価を上回った。特に生徒指導・生徒支援の分野・項目で数値が高くなっている。この結果は、教員が課題・目標を意識し、熱心に教育に取り組んだことの表れとすることができる。しかし、それにもかかわらず生徒・保護者の評価が上昇していないことを踏まえれば、私たちには教育改善に取り組まなくてはならない課題が多くあり一層の努力をしなければならないということである。

重点的な目標は、上に掲げた学習・生活・人権・進路の4つの柱である。この4つの教育目標の成果をさらにあげるためには、教科指導や学年・学級指導のあり方を見直し改善して指導にあたらなければならない。また生徒会活動や部活動を積極的に支援することで、生徒が体験を通して多くのことを学び成長することを促していかなければならない。これらの指導が豊かに充実して取り組み、教育の成果が実りあるものとなるためには、各教員が指導力の向上につとめ、互いの協力・連携を強め、校務分掌等を通して生徒に積極的に働きかけるなど、学校全体の教育力向上に一層努めなければならない。そのためには、教員の自己評価にあるような学校運営の観点や教育内容・教員研修の観点などからも、総合的に私たちの教育活動や教育姿勢を見つめなおし具体的な対策と実行を今年度の課題としなければならない。

## ■まとめ

以上の関係者評価の結果と自己評価との比較検討を踏まえ、今後の重点的な目標・計画、改善方策および学校運営のあり方について以下にまとめた。

### 1. 今後、重点的に取り組む目標・計画

本校が設定している教育目標は生徒の健全な育成に必要なかつ適切なものと考え、上記の通り引き続き掲げたい。それらの教育目標について、その成果を一層上げるための計画および具体的な方策を検討する必要がある。

### 2. 今後の改善方策

今後の改善課題としてつぎの項目があげられる。

- ①建学の精神、教育方針を踏まえた教育の実施
- ②教員間の連携強化
- ③生徒指導の充実
- ④生徒支援の充実
- ⑤教員の資質向上

これらの課題のなかで特に保護者が期待するものは③④⑤の項目である。③では規律と社会性を身につけてほしいと願っている。学校では教育活動のあらゆる場面を通してそれらを指導し習得させなければならない。その方策としては、学級・学年・生徒指導部・部活動等の指導場面を通して、一貫した方針のもとに教員が連携して指導することが大切である。④では一人ひとりの生徒を大切に学習指導、生徒相談、進路指導が求められている。これらの指導を充実させるためには、教員の多方面にわたる指導力の向上を図り、生徒を理解し受け止める心情を養うとともに教育に対する使命感を強くもって取り組むことが求められる。教員に求められるこれらの能力・資質が⑤の教員の資質向上という課題につながってくる。教員は指導者という責任ある立場であると同時に、常に自らの資質向上のために学び研鑽し続けなければならない存在でもある。学校としても教科・生活・進路・生徒支援等様々な指導力向上のために研修の機会をつくっていききたい。

### 3. 今後の学校運営のあり方

学校は社会を担う健全な青少年の育成をはかるという社会的使命を果たし、同時に保護者の要望にも応えるという役割を担っている。そのような社会的責任を果たすために教育内容を充実させ、教育目標を達成できるよう教育方針を立て、組織を整え、教員の資質の向上に努め、積極的な教育を推進していかなければならない。保護者による学校評価の結果を踏まえ、本校の教育課題を解決するために、学校運営のあり方を見直し改善していきたい。

## ■アンケートの集計結果とコメント

保護者・生徒への質問項目と集計結果は以下の通りである。

※教員への質問分野・項目は多岐にわたっているが、保護者・生徒と共通する部分で比較・検討した。

番	項 目	保護者	生徒
1	授業は落ち着いた雰囲気の中で分かりやすく教えている	3.3	3.1
2	学力向上のために教科の学習内容を熱心に指導している	3.4	3.2
3	生徒の進路に関する説明会や情報提供がなされている	3.6	3.3
4	学園の短大や大学への進学がある程度保障されていて安心だ	3.8	3.3
5	生徒個々の個性や目標に応じた進路指導が行われている	3.6	3.2

1. 2は教科指導についての評価である。落ち着いた学習環境、分かりやすい指導など、いずれも評価は高くない。基本的な学習態度を身につけさせ、基礎学力がしっかりと定着するようさらに指導の改善が求められる。教員の自己評価では3.7、4.1となっており、熱心に指導していると言えるが、保護者・生徒はさらにより良い授業を望んでいると受け止めなければならない。

◎教科指導について個々の教員が創意工夫を図るとともに、教科指導法について研修会を持つことを検討する。

3. 4. 5は進路指導についての評価である。保護者はある程度評価しているが十分ではない。生徒の評価はさらに厳しく、将来の目標実現に向けてさらに熱心な指導を求めている。教員は4.1、4.1、4.2と高く自己評価しているが、保護者・生徒には十分とは受け止められていないことを反省しなければならない。

◎計画的な進路指導・進路学習を実施するとともに、生徒一人ひとりに対する進路相談を丁寧に実施したい。

番	項 目	保護者	生徒
6	いろいろなクラブ活動・特設科などが活発に行われている	4.0	3.7
7	文化祭・体育会など行事は活発に行われている	3.8	3.3
8	服装・頭髪・持ち物など生活面での規則・ルールは適切である	3.6	3.2
9	生活面での規則・ルールはよく守られている	3.5	3.2
10	学年・クラスでの生活指導はしっかり行われている	3.7	3.3
11	学校での友人関係・友達付き合いは良い	4.0	3.7

6. 7は生徒会活動等の評価である。保護者は高く評価しているが、生徒は必ずしも評価していない。もっと活発な活動や活躍できる機会の提供を望んでいると理解される。教員は4.2と活気のある学校だと評価しているが、より多くの生徒が活躍できる生徒会活動をさらに積極的に支援していく必要がある。

◎生徒間の親睦を深め体験と行動を通して学ぶことの意義を考え、新たな取組みを考えたい。

8. 9. 10は生徒指導の評価である。保護者は学校が生徒指導を十分にやってくれているという所までは評価はしていない。生徒は、生徒指導は自分たちにも大切だと理解し、先生が生徒のために熱心に指導してくれているとは評価していないようだ。教員は4.0、4.2と熱心に指導していると自己評価しているが、生徒にも熱意と意義が伝わるよう指導の工夫が求められる。

◎生徒一人ひとりに熱心にかかわり、規律やマナー・社会性を獲得することが大切だということをよく説明して生徒指導にあたりたい。

11. は友人関係の評価である。保護者・生徒とも友人関係はほぼ良好だと受け止められている。教員は人権教育の観点からもより良い人間関係を築くよう指導できていると評価している。

◎周囲の人を尊重し、より良い人間関係と社会を築くことが大切だと教えていきたい。

番	項 目	保護者	生徒
12	生徒は先生を信頼しており先生・生徒の関係は良い	3.7	3.1
13	勉強や進路、個人的な悩みなど先生に相談しやすい	3.6	3.0

12. 13は生徒と教員の信頼関係の評価である。保護者は教員に対してある程度信頼を寄せてくれているようだが、生徒からの信頼は高くない。生徒からはもっとしっかりと指導してほしいし、生徒の気持ちを受け止めて悩み事などの相談にのってほしいと期待されている。教員は4.1, 4.2と生徒に目を向け一人ひとりを大切にしていると感じているが、生徒の認識と落差がある。心のアンテナをもっと高く感度良く掲げなくてはならない。

◎生徒をよく観察し、理解し、受け止め、ともに考え、課題を解決していこうと心がけたい。そのような意識と態度を身につけるための研修を行いたい。

番	項 目	保護者	生徒
14	学校からの行事予定など連絡事項は家庭によく伝えられている	3.9	3.2
15	学校のトピック・情報はホームページなどでよく伝えられている	3.7	3.2
16	生徒会活動やPTAの活動は活発でよく協力している	3.4	3.2

14. 15は情報公開の評価である。保護者はある程度評価しているが、生徒は学校の情報発信力は低いと感じている。教員はホームページ等で情報を発信していると4.1の評価を与えているが労力の割りに効果的な発信とはなっていないのではないかと振り返る必要がある。

◎生徒が生き生きとした学校生活を送ることがまず大切で、そのことが情報として丁寧に定期的に発信されれば、保護者の学校理解はさらに深まるだろう。

16. はPTA活動の評価である。これは家庭と学校の連携についての評価でもある。活動であれ生徒指導であれ、家庭と学校の連携は十分ではないと評価されている。生徒指導面では、教員はそのつど家庭と連絡を密に取り合っていると4.3の評価だが、家庭との多方面にわたる連携をさらに拡充することが求められている。

◎PTA活動は一部の委員にとどまりがちである。他の保護者にも門戸を広げたい。

番	項 目	保護者	生徒
17	フォーマルとインフォーマルの組合せが可能な制服に満足している	3.9	3.7
18	学校の施設・設備は良く整っている	3.8	3.4
19	校内の美化・清掃は行き届いている	3.9	3.3
20	学校の雰囲気は全体的に良いと思う	3.9	3.2
21	学校は楽しく入学してよかったと思う	4.0	3.3
22	この学校は生徒を成長させてくれると思う	3.8	3.3

17. 18. 19. 20は学校の教育環境全般に対する評価である。保護者は概ね教育環境について満足しているが、生徒の満足度は高くない。これらの項目は教員の自己評価では評価対象とはなっていないが、生徒の満足度が高くなるよう環境の整備に努めたい。学校の雰囲気という言葉は漠然としているが、施設・設備面や人間関係、教育内容など全般的なものを含んでいると捉えている。

◎新しい施設・設備と老朽化としての落差がある。施設の改修には経費がかかるが、実現に向けて努力するとともに、日常の環境美化には努めたい。

21. 22は本校の教育に対する総合的な評価である。保護者は概ね満足していただいているが、生徒の評価は決して高くない。これらの項目についても教員の自己評価の評価対象とはなっていないが、教員は熱心に教育活動に取り組んでいると感じていることから、生徒も高い評価を与えてくれるものと期待している。しかし、

実際の評価は高くはない。教員はもっと生徒の中に入り込んで指導し、生徒が自分に自信が持てるよう個性・能力を伸ばし、成長を促さなければならない。

◎保護者・生徒の満足度を高めるためにすべての努力を払わなければならない。教育環境・教育内容・教員の資質向上・進路保障等、教育のすべての分野のたゆまぬ改善・努力が求められる。

## 学校評価アンケートの分析【生徒・保護者による関係者評価】

### 【1】 生徒用アンケートの分析

#### 1. 全学年の各項目評価を分析

- ① 評価が高い項目
- 6. クラブ・特設科が活発 3.7
  - 11. 友人関係がよい 3.7
  - 17. 制服がよい 3.7

◇ クラブや行事が活発で、友達と仲良く学校生活を送っている様子が伺える。

◇ 明るく元気で活気のある学校であると、学園の特徴を捉えている。

- ② 評価が低い項目
- 1. 授業は落ち着いて分かりやすい 3.1
  - 12. 先生と生徒の関係はよい 3.1
  - 13. 悩みを先生に相談しやすい 3.0

◇ 授業は静かに集中して取り組めるよう分かりやすい授業をめざして努力・工夫する必要がある。

◇ 先生が生徒の様子をよく見て、一人ひとりに声をかけ、気軽に相談に応じる姿勢が大切である。

◇ 学校の雰囲気、先生との関係、指導内容などについてはあまり良い評価をされていない。学習面・生活面などあらゆる場面で生徒と教員の信頼関係を築いていかなければならない。

#### 2. 学校としてどの項目を重点課題として改善するか。

まず1. で触れた評価の低い項目を重点に指導を充実させなければならない。一人ひとりを大切にする教育、品位の向上、生徒が成長できる指導を実践していかなければならない。

#### 3. 前年度との比較

前年度と比較して0.1～0.2低くなっていることを真摯に受けとめ、その要因を検証し今後より一層改善・努力を行っていかなければならない。

### 【2】 保護者用アンケートの分析

#### 1. 各項目のアンケート結果を生徒の結果と比較しつつ保護者の評価を分析する。

- ① 保護者は生徒に比べると多くの項目でより高い評価を与えている。
- ② 生徒に比べてやや好意的に評価していると思われるが、低い評価項目については厳粛に受け止めたい。

#### 2. 保護者がどの項目を高く評価し、どの項目を低く評価しているか。

- ① 部活・行事・友人関係・制服等について評価が高く、入学させて良かったと評価している。
- ② 授業・教科指導・進路指導・規則・PTA活動等についての評価は必ずしも高くない。

3. 生徒と保護者の結果が異なる項目について考える。

- ① 学園の短大・大学への内部進学があることに対する評価は保護者の方が高い。
- ② 先生と生徒の関係、先生と相談しやすいという項目は保護者の方が評価が高い。
- ③ 設備・美化については、生徒の方が低く評価している。
- ④ 入学して良かった、成長できるという項目は保護者の方が高く評価している。

4. 保護者が学校に何を求めているかを考え、その対策をたてる。

- ① 充実した授業を行い、学力を高めてほしい。
- ② 規則を守り規律ある高校生活を送らせてほしい。
- ③ 子どもにとって信頼できる相談しやすい先生であってほしい。
- ④ 進路指導を充実させ、進路目標を実現させてほしい。

5. 前年度との比較

大きな変動はないが、前年度と比較して項目によっては0.1～0.2の増減が見られる。今後さらに教育の改善に取り組んでいかなければならない。

### 【3】 アンケート分析の活用と学校改革

高校教育の目標は自ら学び、より良い人間関係を形成し、社会に貢献しようとする人を育成することである。その目標を実現するために、学習と生活の基礎・基本をしっかりと身につけさせ、生徒の成長を促すために、つぎの課題に取り組むことが大切である。

- ① 規律ある学校生活の実現と品位のある生徒の育成
- ② 充実した分かりやすい授業と人間性を豊かに育てる教育活動
- ③ 将来の目標を見つけ出し生徒の進路目標を実現させる指導

以 上